

団体名： 棚田清流の会

活動名： 棚田を活かしたやすらぎの里づくり

会長 / 佐伯 ^{さえき} 伴章 ^{ともあき} 所在地 / 周南市中須北

活動紹介

棚田清流の会は、周南市街地から北東部に約15 km離れた中山間地域にあります。古くから守られてきた棚田を共有する5集落で、平成13年6月に会を発足させました。全戸・全員加入で、現在の会員は99戸284人です。

活動は平成10年頃から始まりました。当時過疎・高齢化と、それに伴う耕作放棄が虫食い状態で広がり、集落は荒廃を止める力を持たず成り行き任せの状況下、美しいすり鉢状を誇っていた棚田も荒廃の一途をたどっていました。そこで、5集落の代表者が集まり、ワークショップを始めたのをきっかけに、平成13年3月には住民の総意による行動目標「やすらぎの里づくり憲章」を作成、6月に「棚田清流の会」を発足させました。会は自治会を越えた住民の自主組織です。役員32名、7部会で年間計画に沿って活動し、くらしや農地を守るため、自治会等では解決できない部分に力を発揮します。

むらづくりで一番大切なことは、ここに住んで良かったと思える地域にしていこうと考える、高齢者から子供まで誰もが会の活動に参加できるように、地域内で色々な交流会を工夫しました。一方、棚田の美しい景観を守るには地元の力だけでは限りがあり、都市の力を借りることで喜びや誇りも共有してもらえようと考え、平成14年から棚田オーナー制度と年間かきまつりによる都市農村交流も開始しました。年4回の棚田通信の発行やワークショップの実施で村とまちは更に近くなっています。この会ができたことで、若手は農業に前向きになり、地域は美しい景観を保つようになりました。また、様々なアイデアが出るようになり、薄れつつあった地域のコミュニケーションが復活したと思います。「棚田清流の会には評論家はいない」をモットーにこれからもみんな力で出し合って頑張っていきたいと思っています。

